

歴史的砂防施設の安全確保と保存

歴史的砂防施設の多くが現役の防災施設であることを踏まえ、その保存を検討するにあたっては、施設の安全性を最優先とした上で、さらに文化財としての価値を損なわないことが必要である。

以下に歴史的砂防施設における保存の基本となる補修等のあり方について述べる。

1. 歴史的砂防施設の補修の考え方

1) 歴史的土木建造物の文化財としての維持・補修の考え方

文化財の場合、文化財としての価値を損なわないように、その維持・補修には一定の制限が設けられている。しかし、それぞれの建造物に応じた柔軟な運用がなされ、その内容についても建造物の特性に応じて細かく部位に区分し、それぞれの意味・重要性・特殊性に応じたきめ細かな対応がなされている。土木建造物が重要文化財に指定される際には、現役の施設であることを考慮し、以下のような保存・維持基準をもとに、保存・維持管理計画を作成することが多い。

A:形状、材質、工法を維持する(保存部分)

B:形状は維持するが材質、工法については通常の管理を勘案して適宜変更もありうる(形式保存)

C:形状、材質、工法を適宜変更する(更新可能部分)

歴史的砂防施設においても、重要文化財に相当する施設があると考えられ、施設の部分・部位毎の意味・重要性・特殊性に応じて保存の基準を定めるなどして、その価値を損なわないための方策を検討することが必要と考えられる。

また、重要文化財におけるこのような考え方は、登録有形文化財においても参考となるものであり、補修計画への反映が望まれる。

2) 歴史的砂防施設の保存の考え方

厳しい環境条件の中で、施設がその機能を果たすとともに、施設自体が新たな環境を創出するという砂防施設の特徴や役割を踏まえつつ、歴史的砂防施設の文化財としての価値の維持を図る保存方策を検討する必要がある。保存にあたり、具体的には施設自体に係る価値と、施設と土地との関係に係る価値の2つの観点が必要である。これらのことを踏まえた保存の要点を図-4.1に整理する。

価値	内容	課題
施設自体に係る事項		
材料：構成する材料	材質・色調	材料の調達・色合わせ
形態：構造形式の復原	外観と構造	古図面、古写真などの収集
技術：技法の継承、再現	技術の保存	技能者の確保・研修
土地との関係に係る事項		
地勢、地質を考慮した特徴的な形態	施設を含めた土地の保存	施設を含めた土地の保存・管理を担保するための方策
周辺の自然と一体なった景観		

図 - 4.1 歴史的砂防施設の保存の要点